

事例 2

話し合いと相互評価を通して練り上げるプレゼンテーション

1 育成を目指す言語能力

本単元は、目的や場に応じて言葉遣いなど表現を工夫して話すという言語能力を育成するために計画したものである。「国語表現 I」の学習指導要領の指導事項「ウ 目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して話したり書いたりすること。」を指導の中心に取り上げ、「相手を意識して、必要な情報を聞き手に配慮した表現で分かりやすく話している。」という評価規準で評価する。言語活動例の「ア 自分の考えを明確にして、スピーチ、発表、討論などを行うこと。」を参考に、「話し合いと相互評価を通して学校紹介のプレゼンテーションをする」という言語活動を通して、冒頭で述べた能力を育成する。

本事例は、夏期休業中に行われる中学三年生向けの「一日体験学習」における、在校生と中学生の交流会で、学校紹介のプレゼンテーションをするという設定で、そのシナリオをグループで話し合いながら作るという実践である。実際の発表に生かすように、発表のシミュレーションを行って、発表の仕方や内容を相互評価し、シナリオを練り上げる学習活動を展開した。相手意識を明確にもたせ、必要な情報を効果的に伝えることをグループ活動での学び合いを通して学習させた。

2 学習活動の概要

(1) 単元名 話し合いと相互評価を通して練り上げるプレゼンテーション

(2) 単元の目標

①相手意識をもち、聞き手に分かりやすく伝えようとする態度を身に付ける。

(関心・意欲・態度)

②目的・相手・場面に応じた情報を、適切な表現を用いて話す能力を高める。(話す・聞く能力)

③適切な発声の仕方や話す速度など、口頭表現に必要な知識について理解する。(知識・理解)

(3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	知識・理解
①聞き手に配慮した表現で分かりやすく伝えようとしたり、相手の話を注意して聞き取ろうとしたりしている。	①話すために必要な情報を確認、整理している。 ②学校案内に必要な情報を、聞き手に配慮した表現で分かりやすく話している。 ③必要な情報や効果的な表現に注意して聞き取っている。	①適切な発声の仕方や話す速度など、プレゼンテーションに必要な知識について理解している。

(4) 指導と評価の計画（3時間）

時間	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1	<p>プレゼンテーションについて知る</p> <p>(1) 資料1を読んで、プレゼンテーションについて理解する。</p> <p>(2) 学校行事「一日体験学習」の「在校生との交流」（45分間）において、中学三年生に対して自分の学校をどのように紹介したらよいか、グループで話し合う。</p> <p>(3) プレゼンテーションのシナリオをグループで話し合って作る。</p>	<p>○聞き手である中学三年生の立場や既存の知識を踏まえさせる。</p> <p>○黒板や、一日体験学習の当日に配付するパンフレットなども活用したプランを作らせる。</p>	<p>話す・聞く能力①、知識・理解①</p> <p>（ワークシート資料2への記述の確認）</p>
2	<p>発表を相互評価する</p> <p>(1) グループごとにクラスメイトを聞き手として発表する。（シナリオの中の一項目だけをダイジェスト版として、3～5分程度で発表する。）</p> <p>(2) 聞き手は発表内容・発表の仕方について、評価項目に基づいて評価する。</p>	<p>○事実をありのままに話すのではなく、伝えたいことが効果的に伝わるように表現を工夫させる。</p>	<p>話す・聞く能力②③、知識・理解①</p> <p>（ワークシート資料3の記述の確認、発表の観察）</p>
3	<p>相互評価を基にシナリオを練り上げる</p> <p>(1) 評価票を基に、改善点をグループで話し合い、シナリオを推敲する。</p>	<p>○評価票をグループごとに交換し、他者の評価を基に自分のグループの内容を振り返らせる。</p>	<p>話す・聞く能力①、知識・理解①</p> <p>（ワークシート資料2、資料4の記述の確認）</p>

※関心・意欲・態度については単元全体を通して評価する。

3 評価の例

この実践は、プレゼンテーションのシナリオをグループの話し合いで作成することと、発表のシミュレーションにおける相互評価での気づきを原稿の推敲に生かすことを通して、プレゼンテーション能力の向上を図ったものである。紙面では実際の音声による発表は再現できないが、学習活動として取り入れた相互評価**資料3**や自己評価**資料4**の自由記述によって、生徒が互いに効果的な発表の仕方を学んでいる様子が見て取れる。

4 成果と課題

(1) 成果

この実践では、自分の高校の良いところを中学生に知ってもらおうという、目的意識や相手意識を明確に意識させた学習活動によって、生徒の学習意欲の高まりが感じられた。実際には、全ての生徒が一日体験学習で中学生と在校生との交流に参加したわけではなく、あくまでも模擬的に中学生に見立てたクラスメイトを相手にプレゼンテーションを行ったに過ぎないが、初対面で緊

張しているであろう中学生を想定して、高校生がもつ情報を、いかに効果的に伝えるかということグループで話し合い、さまざまに工夫しようという姿勢が見られた。

(2) 課題

プレゼンテーションの学習は、それが生徒にとって必然性のある場面であればあるほど、取組への意欲も高まり、学習の成果も期待できる。他の単元においてもそうした場面を設定して、学習の達成感や有用感を実感できるような工夫が必要であろう。

一日体験学習における、中学生と在校生との交流という設定で、「話し手」として情報の送り手の立場を経験したことを、次は、生徒が大学のオープンキャンパスや学校説明会等に参加した際に、情報の受け手である「聞き手」の立場で、「必要な情報をどう聞き出すか」といった観点をもって臨めるように生かす指導につなげたい。その際に、情報を無批判に受け入れるのではなく、批判的な視点をもって判断できるような能力も身に付けさせたい。

使用教科書

- ・『改訂版 国語表現Ⅰ』京都書房

プレゼンテーション入門

○プレゼンテーションとは

プレゼンテーションとは、元来、計画・企画・調査研究の結果を会議の席で効果的に発表して、相手を説得することです。情報技術が日々進歩する現代社会において、人間が、自ら肉声で行うコミュニケーションの意義が高まっている今、重要視されている分野です。

プレゼンテーションでは、聞き手の共感・理解・納得を得るために、発表の内容とその伝達の方法に積極的な工夫改良を加えることが大切です。口頭の言葉だけでなく、さまざまなツール（道具）を使ったり、寸劇を挿入したりして、聞き手の参加を促す工夫をしましょう。

○やってみよう

今回は、夏休み中に行われる中学生対象の「一日体験学習」の中の『在校生との交流』を例に「プレゼンテーション」に取り組んでみましょう。当日、実際にプレゼンテーションを行うクラス代表の発表者の二人に、できるだけたくさんのアイデアを提供しましょう。

まず、Aを見て、この行事の中で『在校生との交流』の果たす役割について確認しましょう。

Bは『在校生との交流』の中で、説明すべきこととして、学校から発表者に示される資料です。これらを盛り込んで進めましょう。

45分間の中で、何を、どのように紹介していったらよいか、考えてみましょう

A 一日体験学習全体の流れ		B 在校生との交流	
1. 受付・案内	分	1. 発表者 自己紹介	
2. 学校の概要説明（校長先生）	10	2. 学校生活についての説明	
3. 学校紹介		①学習・授業について	
①部活動発表	15	予習・復習・テスト等	
ユネスコ部		②部活動について	
ダンス部		文化部 21部 運動部 12部	
合唱部		③学校行事について	
②学校行事の紹介（映像）	15	創立記念日 全校遠足 運動会	
～体育館から教室へ誘導～		学校祭 球技大会	
4. 在校生との交流	45	修学旅行 送別と感謝の会	
5. アンケート調査	10	④生徒会・生徒会専門委員会	
6. 部活動・施設見学		⑤服装について	
7. 解散		⑥高校入試のアドバイス	
		3. 感想を聞く	

生徒の記入例

『在校生との交流』の流れ

時間	内容	どのように（何をどう工夫するか）
0	あいさつ	さわやかに 笑顔で 出身中学・部活動・趣味も言う
	自己紹介	黒板に名前を書く
5	高校生の生活①	質問「今、予習を日々の日課としている人」
	日々の勉強編	高校の勉強は予習が大切 という話
10	高校生の生活②	部活動に入っている人の平均的な一日を模造紙にまとめて楽しく紹介する
	私的一天	→この部分発表
15		中間テストや期末テストは午前中で帰ること
20	高校生の生活③	テスト教科
	勉強編	印象深い先生のお話
25	高校生の生活④	「パンフレットを見てください」
	部活動編	手元の資料を見てもらう(他校にない部、強い部)自分の部活動について
30	高校生の生活⑤	引き続き 手元の資料を見てもらう
	学校行事編	4月から順に
35	高校生の生活⑥	月に一回服装検査があること
	服装編	きちんとした自分の夏服を見てもらう 冬服はパンフレットを見てもらう
40	受験アドバイス	とにかく繰り返し勉強する 苦手も頑張る 今からでも遅くない

*効果的なプレゼンテーションをするために、質問を工夫したり、黒板、模造紙、フリップボード、現物などの視覚資料を提示したりしよう。

プレゼンテーション評価票

生徒の記入例

組 番 名前

班	発表者	タイトル	コメント
A	〇〇	私の一日	自分の一日を例に挙げるのは分かりやすいし中学生もイメージしやすい。リアルに高校生の生活が分かる。
B	〇〇	購買	クイズ形式で質問していて楽しめた。
C	〇〇	服装	服装のよい例と悪い例をモデルを使って説明していて分かりやすい。中学生も緊張がとけるだろう。
D	〇〇	行事	一つ一つの行事について、詳しく話していて、一定のテンポでなく、飽きずに聞いた。
E	〇〇	休み時間の過ごし方	学校の楽しさが伝わるから、いいところに目を付けたと思う。この学校に怖いイメージを持っている人も安心すると思う。
F	〇〇	運動会	応援合戦の衣装を実際に着せて見せてくれたのがよかった。楽しそうな様子がよく伝わった。
G	〇〇	部活動	自分が入っている部活動を紹介していた。先輩の実体験を聞けるのはいいと思う。中学校よりも部の数が多いので、知らない部について話を聞きたいだろう。
H	〇〇	中学校と高校の違い	高校は中学校に比べて「自由」に行動できることについて話すのもポイントだ。中学生の高校への不安を解消できていてよかった。テレビ・ショッピングのような発表がおもしろい。

○感想 生徒の記入例

- ・中学生は緊張しているから、ユーモアを交えておもしろくしてあげるとよい。
- ・自分の体験とか実物とかを入れるとよい。
- ・自分たちの目線だと「ああ、確かに！」と納得できたけれど、中学生の目線だと、理解するのが少し難しいかもしれないと思ったところがありました。もっと聞く側の立場に立って考えることが大切だと思った。
- ・スピーチなら得意ではないけれど、苦手でもないから、あまり考えずにやっても大丈夫だと甘く見ていたら、あまり良くできなかった。きちんとできるようにするには事前によく考えておかないといけないと実感した。何より、みんなが上手で驚いた。
- ・大切なのは「声」「笑顔」「目線」「分かりやすさ」だと思った。堂々とした姿勢ではっきり話せたら、良い部分がたくさん出てくると思った。どの班にも良い部分があって、学ぶことができた。
- ・みんなそれぞれ分かりやすくおもしろい内容だったので、これを取り入れていこうと思う。
- ・どこにポイントを置くかによって、プレゼンテーションの内容がいろいろ変わってきて、この高校の特徴の伝わり方が違った。
- ・このプレゼンテーションでは、実際に使ったものを見せたりするとより分かりやすくなるし、説明しやすくなると思った。また、自分の体験したことを踏まえて説明するとより分かりやすくなると思う。
- ・いろいろなものと比較しながら話すとイメージしやすいと思った。
- ・話し方やトーン、表情を含めて声はとても大切だと気がついた。声の出し方の違いで、同じ内容を話しても聞き手に伝わるものが全然違うのだと改めて実感した。
- ・文章をただ読んで、セリフを決めて話したりするより、抑揚をつける、感情を込める、アドリブ的な話し方をするなどという工夫をした方が、聞いていておもしろいと感じた。

プレゼンテーションの振り返り

組 番 名前

1 今回のプレゼンテーションを見て、一番よかったのはどのグループでしたか？

A

C

2 1でそう思った理由を簡単に書いて下さい。

A: 行事などの特別なことは全体で説明を受けているので、同じことを何度も聞くより、高校に入った自分の生活を描けるような説明をしたほうがよいから。

パンフレットを見ても分からない本物の高校生の一日は、なかなか聞けないから。

C: 服装の説明という、つまらない感じを受けるけれども、実際によい例とダメな例を出していて、分かりやすいし、おもしろいから。

聞き手に、「どこが悪いと思いますか？」と質問していて、参加型でよかったと思います。

話し方がうまい。楽しそうだし、場が和む話し方だったから。

3 自分たちのグループのプレゼンテーションで一番よかったところはどんなところですか？

・自分の所属している部活動だけを細かく紹介したところ。(広く浅くより伝わりやすい。)

・実際にあったこと、体験を話せたこと。

・クイズ形式にして聞き手を巻き込んだところ。

4 自分が次にプレゼンテーションをしたら、どんなことに気を付けたいですか？

・自分たち生徒にしか伝えられないものを、よりリアルに紹介するとよい。

・単調に行事の説明をされてもつまらないから、行事を経験して自分がどんな感想を持ったとか、具体的に話した方がよいと思う。

・ただ話すだけでなく、具体物を使う。話し方も一方通行より、会話するようになり問いかけてみたりして、言葉のキャッチボールをした方がよい。

・聞き手に興味を持ってもらえるように、言葉遣いや口調を変えたい。中学生相手なら、少し友達のようにフランクに語りかける。